

## 入園時期における 3 歳児保育室の物的環境に関する研究

広島大学大学院 渡邊真帆

この度は、若手会員派遣支援によるご支援を賜り、2018 年 8 月にハンガリーのブダペスト工科大学で開催された第 28 回ヨーロッパ乳幼児教育学会(European Early Childhood Education Research Association 28th Conference ; EECERA)に参加させて頂きました。“Physical Environment in a Classroom on Beginning Kindergarten: Focusing on the Morning Routine of a Three-Year-Old Boy”「入園時期における保育室の物的環境：3 歳児の朝の身支度ルーティンに焦点を当てて」というタイトルで、ポスター発表を行いました。

幼稚園 3 歳児クラスで収集したデータから、保育室の物的環境に子どもがどのように関わっているか、物的環境の何が入園時期の子どもの身支度を支えているかを報告しました。今回は、手掛かりとして 1 人の子どもに焦点を当て、入園式翌日から夏休み明けまでの朝の身支度ルーティン場面で、何(環境)にどの順番で触れているかを分析しました。その結果、①触れるものの範囲の変容(身支度ルーティンに関するもの、関係ないもの)、②身支度ルーティンに関する物的環境の位置が毎朝同じであることが、子どもの身支度を支えていると明らかになりました。

発表の際、各国の子どもの登園形式、物的環境の配置等についてなど、英語で質疑応答も行いました。その際、意見を思うように伝えられないもどかしさがありました。加えて、研究を日本で行っているという自明を問い直し、より広い文脈で研究を位置づける必要があると痛感しました。これらは次回乗り越えたい課題です。

私にとって初めての国際学会で不安でしたが、発表の時に質問して下さった方やランチタイムに偶然ご一緒した方と、お互いの研究や各国の保育について対談したことをきっかけに、国際学会を楽しむことができました。

国際学会への参加は、ハードルが高かったのですが、ご支援を賜りましたことで、背中を押して頂きました。今回は悔しさも残りましたので、今後も研究に精進し、また海外で報告できるよう励みます。